

平成 26 年度 第 1 回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：平成 26 年 8 月 11 日（月）18：30～19:45

場所：市役所 201、202 号会議室

出席者：佐々木(重)会長、吉川副会長、山崎委員、永田委員、熊谷委員、佐々木(祥)委員、西塚委員、中島委員、森下委員、矢島委員、（10名／13名中）
佐藤行財政改革推進本部本部長、小池総務部長、三浦人事課長、今村財政課長、事務局

欠席者：木下委員、須山委員、小島委員

1. 開会（小池総務部長）

2. 任命書交付（佐藤本部長）

永田正彦委員（いいだシニアクラブ連絡会）

（小島齊委員（飯田市PTA連合会）は欠席のため次回交付）

3. 飯田市公共施設マネジメントの諮問（佐藤本部長→佐々木会長）

答申時期 平成 27 年 2 月末

4. あいさつ（佐藤本部長）

飯田市の公共施設は数が多く古いものも多い。市民サービスを低下させずに施設のマネジメントを進めていくことはたいへん難しいことであるが、行革推進委員会の今年のメインテーマとして一緒に考えていきたい。

5. 協議事項（進行：佐々木会長）

（1）会長あいさつ

行革推進委員会で扱う議題は総花的にいろいろ扱うのではなく、何か一つを集中的に検討していきたいと考えていた。そういう意味では公共施設のあり方は重要な課題であるので今年はこちらを中心にしっかり検討していきたい。また、これから約半年間に 4 回の会議だけでは、十分な議論ができないかもしれない。これからの会議の進め方は考えていきたい。

（2）永田委員自己紹介

（3）飯田市公共施設マネジメント基本方針の策定について

・内容説明（今村財政課長）

現在は基礎調査を行ったうえで現状と課題を整理している。今年度中に基本方針を策定したいと考えている。

一つの会議の中で説明をし、その場で意見をいただくというのは十分な議論ができないかもしれない。今後の進め方として、事前に資料をお配りし、ご意見等を委員会開催前にお出しいただき、当日の協議はそれをもとに進めていったらどうかと考えている。

・熊谷委員

施設の長寿命化とは木造を鉄筋にするということか。

→定期的に施設に手を入れて長く使用していくということ。場合によっては木造施設に鉄筋の補強をするということもありうる。（今村財政課長）

- ・吉沢委員

事前に意見を出すということは効率的に見えるが実はそうでもない。資料に対する説明の場を設けるべきでは。

- ・佐々木委員

説明を聞く時間は欲しい。資料だけで理解するのは難しい。(森下委員も同意見)
→資料では4回の会議になっているが9～12月の間に少なくとも1回、12～2月の間にも1回は議論の場が必要と考えている。説明の機会も含めて検討していきたい。
(今村財政課長)

6. 報告事項

(1) 「がんばる地域交付金」の算定に係る一部新聞報道について

- ・佐々木会長

以前飯田市の行革が進んでいないような新聞報道がされた。行革推進委員会としては大変気になる内容なので、本日説明をお願いした。

- ・内容説明(三浦人事課長)

病院を除く職員数は平成25年4月1日現在で811人となっており、ピーク時の平成6年4月1日比べて195人削減している。しかし今回の「がんばる地域交付金」は病院も含めた職員数が算出根拠になっており、これが今回行革努力が表れない原因となっている。病院については地域医療の一層の充実を図るため職員数を増やしている。

- ・山崎委員

そのような算出方法について国に対して申し入れなどは行っているか。
→今回の算出において公営企業の職員を含めることは合理的でないということを、新聞報道の直後に市長が口頭で総務省に申し入れをしている。また、同様の考え方が普通交付税の算出においても取り入れられており、改善要望を先日提出したところである。今後も上京等の機会をとらえて要望等を行っていきたい。(佐藤本部長)

(2) 平成26年度市政懇談会における説明内容について

- ・内容説明(清水企画課長補佐)

- ・佐々木会長

行革推進委員として市の行政全般についても目を向けていただきたい。

7. その他

議事録の作成及び公開について

- ・内容説明(竹村財政係長)

行革推進委員会のような委員会等の活動内容について、市民の皆さんに興味を持っていただいたり、理解を深めていただくため議事録の公表に取り組んでいる。公表までの手続きは、事務局で議事録作成後、出席委員全員に配布。委員の皆さんの確認後、最終的に佐々木会長の確認をいただき、飯田市のホームページにアップしていきたい。
→了承